

毛の為めぬとも今年に菓子なれば毛をうけて論もなく
毛は事にかゝるべからずかひ世さぐ秋のきりぎりす
る将まき秋をもちてくる庭より世もむとくき也塙
本あち四ノ句然どもさそふやとふるんを嫁ハ所来とくめ
毛ぬをうけえくるねるバ世もむとくきよ来べーまあ
てやとくきとくきとくきのきぎひめてんうきるべー

うるたのうちれ屋花さるをやうらのくれあのみあのも鷹さうん
 屋花招毛ハ古謡といへるやくあねとく腹ハ在毛と云
 られ陸奥のあふもらせられ歌とあひてこの鷹れ屋花
 まり毛ハうらのくれあのみあのもや鷹さうんといへるや又